

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071401097		
法人名	有限会社 中山メディカルサービス		
事業所名	グループホーム おあしす ありた		
所在地	福岡県福岡市早良区有田6丁目2-5 (電話) 092-801-1122		
自己評価作成日	平成 24 年 11 月 20 日	評価結果確定日	平成 25 年 3 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

生活保護の低所得の方でも利用できるよう利用代を低価格に抑えています。また、保育園との年2回の交流会、小・中学校の福祉教育の場の提供、高校生のボランティア活動の場など、教育機関との連携を充実させ、バザーの参加などお互いに支えあって交流を深めています。応急手当普及員の資格を取得し、消防署発行の救マークの認定も頂いており、また、子ども110番の登録など24時間体制のメリットを生かし、地域の貢献に役立てています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 24 年 12 月 19 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

閑静な住宅街の中に位置し外観も周囲の風景に溶け込んでいる。敷地内には家庭菜園が数か所あり、食材として収穫するだけでなく園芸療法としても活用している。日常生活では、食事の手伝いやフロアの飾り付け等を職員と一緒に行うことで生活動作の維持につながっている。音楽療法、外出やバザー等の行事も充実しており、家族にも協力を得ながら入居者が楽しんで暮らせるよう支援している。地域との関わりとしては保育園、小中学校、高等学校が近隣にあり、学校行事や地域行事に参加するなど積極的に交流を深め信頼関係を構築している。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時理念の唱和をする事、3年経ち職員は理念を受け入れ、利用者様への接し方や地域との交流も徐々にではあるが出来る様になってきた。	わかりやすい言葉で表現された理念は玄関、パンフレット等に記載され社会的役割が明確になっている。毎朝朝礼での唱和や月1回のユニット会議等定期的以外にも普段の言葉かけで意識づけ、実践できるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回保育園から施設に来て頂き、歌や踊りを見せて頂いている。又、小・中・高の学習発表会や体育祭などの見学に行かせて頂いたり、福祉体験学習の受け入れを行っている。地域の町内の祭りや地域行事に積極的に参加させて頂いている。	事業所のバザーや敬老会に対して家族や地域住民の協力体制が整っている。保育園の行事で来訪した幼児が小学生になり、福祉体験学習で再来訪する等、断続的にも交流できている。入居者は地域の夏祭りや体育祭、学習発表会等学校行事に関しても積極的に参加して楽しまれている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	正社員は応急手当普及員の資格取得から3年経過し再講習を全員受けている。「こども110番」としての指定を受け、地域にも関わっている。又、消防所より「救マーク」の指定を受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を開催しており当施設の報告を行い、民生委員、包括支援センター、御家族代表等に色々な意見を頂きユニット会議や申し送り時に話し合いサービス向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、開催月の第4水曜日に開催している。委員から、バザーで出た収益金の一部を被災地への義援金にすることやAEDの積立金とする等を提案され、実践している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区役所への報告や相談を密に行い、サービス向上に努めている。市主催の講習会に積極的に受講できる様勤務態勢を整えている。又、資格取得の研修生を積極的に受け入れている。	福岡市地域支援事業であるおむつサービスの申請や生活保護受給者に対して担当ケースワーカーへ定期的に利用状況を報告している。ケースワーカーから新たに入所相談を受けるなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上玄関の施錠はしているが、日中・夜間を通してリスクの高い利用者様の近くで見守りを行い拘束は行っていない。リビングで過ごす時間を多く取り事故のない様に見守りを重視している。	夜間帯、玄関のみ防犯目的で施錠する以外は行動の制限はしないよう見守りを強化したり、フロア出入口に鈴を取り付けるなどして、安全配慮されている。外出傾向を把握し早期対応できるよう近隣のスーパーの店員、交番にも声をかけ連絡体制を整えている。職員教育体制も確立され身体拘束排除に向けた研修会を開催している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて学んだりマニュアルを作成したりしている。又、ユニット会議等で職員への周知徹底に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や研修会に積極的に行く事により参加していない職員にユニット会議や申し送り時に説明している。権利擁護に関する書類を役所より頂き、研修で知り得た情報などを、年2回の家族会で配布する事により御家族にも理解をして頂いている。	契約時に家族へ権利擁護に関する制度を説明、情報提供している。職員は外部研修を受け、ミーティング時に研修報告として伝達し、制度周知している。ユニット会議に参加できなかった職員に対しても後日資料を配布するなど徹底している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は内容の説明に時間をかけ、理解して頂く様に努めている。疑問に思う点等には質問し易い雰囲気を作り、納得の上で契約させて頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会や毎月の行事、面会時を通し、利用者様の状況報告や御家族様の要望を聞く様にしている。ユニットの入口には意見箱の設置を行い情報収集にも努めている。	家族から電話連絡からメール連絡へ変更の要望があり、利用者の状況報告に合わせて写真も貼付するなど連携にも温かさを感じられる。食事メニュー、外出、買い物の要望等は利用者との日々のかかわりの中で聞き取られ企画運営されている。実施後は事業所便りが作成され広報としての役割も果たしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者1人の決定ではなく、ユニット会議や申し送り時に職員の意見や提案を聴く機会を設けている。	管理者は職員に対して自主性を大切に関わっている。援助法等ユニット会議で意見交換し、新しいアイデア等を積極的に取り入れ利用者に還元されている。個人面談も行われ管理者と職員の信頼関係構築の場となっている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内には代表者が不在で各管理者との話し合いや行事員を通し年間行事を考えている。ユニット内は特色を出す為、職員に季節を表す飾り付けや、ユニット内の家具の配置を考えてもらっている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用に当たっては性別や年齢で不採用にする事はない。介護に対する姿勢や考え方を重視している。介護経験の浅い人には希望する研修があれば参加し向上出来る様にしている。	管理者が採用選考し入職後もスキルアップできるように体制を整えている。職員へ外部研修受講の希望を聞き取り、積極的に参加できるよう勤務体制など配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念を毎朝唱和する事や研修に参加する事で人権の重要性をユニット会議や申し送り時話し合っている。	職員が人権に関する外部研修に参加し、ユニット会議にて研修内容が報告され他職員へ周知している。日々のかかわりの中でも人権を尊重した援助を心がけるよう管理者が中心になり話し合われている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市・県の講習情報を提示し、参加し易い勤務態に配慮しています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に行く事により他施設の職員との交流が出来る様に努めている。又、研修を受け入れる事により他施設の考え方等を聴く事が出来ている。当施設の祭りや他施設の納涼祭を通して交流を深めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に当たっては面談やケアマネの情報・御家族からの生活歴を聴く事により安心できる様なプランを作成している。コミュニケーションを密に図る事により、穏やかな生活を送って頂ける様に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の説明や方針等を契約前にしっかりと話している。又、ご家族の話をよく聞き、ニーズを受け止め、良い信頼関係が築ける様に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	本人と御家族にとって一番いい方法を見出す お手伝いが出来る様に心がけている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	介護度に応じた手伝いをして頂いている。 又、集団レク等を通し、入居者様同士の橋渡 しをする事により過ごしやすい環境を作っ ている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	行事や面会時、又、電話にて何かあれば相談 している。家族からの提案や職員からの提案 も受け入れ易い環境を作りより良い人間関係 作りに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	外出時や受診時、入居前に生活していた場所 や自宅に寄る事もある。知人や友人の面会が 良くあり、利用者様は喜ばれている。又、御 家族の車にて以前良く行かれていた場所に行 かれる事もある。	契約時等に、家族・本人から情報を得て、職 員全員で情報を共有している。外出時に馴染 みの場所に寄ったり、友人が訪ねて来られ、 一緒に外出をされている。また、電話や手紙 での連絡を取り持ち、利用者との関係や暮ら しが継続できるように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のコミュニケーションを取る事 が難しく、職員が橋渡しをする事により円滑 な人間関係を図れる様に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	医療行為が必要で退居や他施設に移られた時 等見舞いや訪問をしている。年賀状や行事の 案内状を出す事もある。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ユニット会議や申し送りを通し、本人の思いを全員が共有できる様に努めている。上手く喋れない方には筆談で意志表示をして頂いている。喋る事が出来ない利用者様にはスキップを図っている。	生活歴を、家族や本人、親戚より情報を得て職員間で共有している。また、本人との会話の中で色々な情報を集めアセスメントシートを作成している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に御家族から生活歴等の情報を提供して頂き、入居後は出来る限り早く本人からの情報収集に努め、信頼関係を築く様に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に本人の行動や状態を観察し、職員間で知り得た情報を共有して、穏やかに過ごせる様にしている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度のモニタリングを行い、参加者全員の意見を取り入れ介護計画を立てている。入院後は暫定1ヶ月を立て、御家族や担当医の意見を取り入れ、計画を立てている。	毎月、開催されるユニット会議の中で、一人ひとりの状況を報告し、話し合っている。職員間では、意見交換のしやすい環境が保たれ直ぐに反映される事もある。介護計画は、3ヶ月に1度会議を行ない、必要があれば、その都度、見直しを行なっている。1年に1度介護計画書の見直しを行なっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活に変化が見られた時等は特に細めに記録し、職員間で話し合い統一ケアが出来る様に努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスや当ユニットの行事計画に沿ったサービスは勿論であるが、一人ひとりのニーズを引き出す事により、柔軟な支援を心がけている。その為に利用者様、御家族とのコミュニケーションを密にとる様に日頃から心がけている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容や耳鼻科には月１回の訪問をお願いし、年２回避難訓練を行い消防署とも密に連絡を取っている。保育園から高校までの交流やボランティアの受け入れをしている。運営推進会議には包括支援センターや民生委員の方に来て頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族の希望する病院を受診して頂いている。基本的には御家族に行って頂く様にしているがご家族の都合で行けない時は職員が同行している。結果は御家族に電話で報告している。知り得た情報は御家族、職員で共有できるようにしている。	基本、受診は家族にお願いしているが、対応できない場合は、スタッフで受診を行なっている。受診後、結果内容は、電話にて説明を行なっている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週１回定期的に看護師が訪問しており、情報提供を密に行っている。又、２４時間相談できる様になっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関と御家族と相談のもと、本人にとって一番いい方法を一緒に考える様努めている。又、細めに職員はお見舞いに行き顔を見せる事で安心して頂く様に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行なっておらず、契約時説明して納得して頂いている。体調に変化が見られた時は利用者様、御家族の意向を汲み取り最善の方法を医師と話し合い方針を決めている。	医療機関との連携が整っており、スタッフ・家族・主治医と様子を観察していきながら、できる限りの間、住み慣れた部屋で生活して頂き、主に、医療が必要となった時に入院する体制になっている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、緊急時に備えている。又、正職員は「応急手当普及員」の資格を持っており、ユニット会議等で常に勉強会を開いている。資格を持っていない職員には、定期的に研修や講習会への参加を促している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や水害などのマニュアルが作成しており、定期的にユニット会議で話し合っている。避難訓練を年2回行っており、非常用備品もユニットで準備している。正職員は「応急手当普及員」の資格を持っており災害時等は地域に貢献できると思う。	年に2回（5月・11月）、日中想定・夜間想定避難訓練を行なっている。消防署との訓練もされており消火器の取扱い・AEDの取扱いの訓練も行なっている。また、備蓄も各ユニットごとに準備している。	
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝の理念唱和をする事により、人格を尊重しプライバシーが守れる様話し合っている。基本動作や接遇には特に気をつける様にしている。排泄時の誘導や失禁等の対応には尊厳を傷つけない様配慮している。	スタッフは、研修やミーティングにてプライバシー保護の徹底を図られている。特に、利用者へ声を掛ける時には、本人の尊厳を守るようスタッフ全員が気を付けている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望が言える様な雰囲気を作り言葉を喋れない人は表情や仕草を見てくみ取る様にしている。職員が何事も決定するのではなく、いかに思いを引き出すかを職員間で定期的に話し合っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務に追われ過剰介護になりがちであるが、待つ介護、待てる介護に取り組んでいる。又、利用者様の生活ペースや気持ち尊重し、その都度臨機応変に対応している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の好みを押し付けるのではなく、利用者様の希望に沿って髪型や洋服を決めて頂いている。希望する利用者様には買い物に付き添う事もある。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に能力に応じ、食事の準備や片付け、テーブル拭き等を手伝って頂いている。花壇で収穫出来た野菜をその日に食卓に乗せて頂いている。又、何を食べたいか、料理本や食材を見て一緒に考えている。	利用者一人ひとりの嗜好を、家族等より情報を得ている。メニューは、各ユニットごとに考えて利用者と一緒に準備を行ない、後片付けも出来るときは、一緒に行なっている。職員1～2名は利用者と同じ内容の食事を一緒にとっている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分チェックを行い、栄養や水分量を把握している。毎回検査簿に記入する事により、バランスのとれた食事を提供できる様に心がけている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは習慣になっている方は自ら行い、出来ない人は声かけや職員介助にて出来る様に支援している。又、週1回訪問歯科の衛生師の口腔ケアを全員受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ポータブルトイレやリハビリパンツの使用については、出来るだけ使用を避ける様心がけている。どうしても必要と思われる時は、御家族、職員と相談の上使用する場合もある。排泄記録のチェックにより定期的にトイレ誘導する事でトイレでの排泄を支援している。	本人を良く観察されており、一人ひとりの行動に対応し、さりげなく排泄介助を行なえている。また、スタッフ間でも声掛けの仕方を利用者には分からない様に工夫され、とても配慮されている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェックを行い、水分の補給を促したり、繊維の多い食事作りを心がけている。日光浴の為の散歩が出来る様工夫して環境作りをしている。同時にそれぞれに合った下剤の使用を医師や看護師と相談しながら行っている。又、定期的に乳酸菌飲料を摂取している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日を週2回決めているが、その日の体調や利用者様の気分によっては臨機応変に曜日を変更している。介護の重い方も浴槽に入れる様2人介助を行っている。浴室にはおもちゃを入れており、浴槽で楽しまれている利用者様もいる。	一人ひとり、ゆっくりと入浴して頂けるよう、歌が好きな方は一緒に歌い、昔話をしたり、その他、入浴が楽しめるよう遊び道具を準備され利用者のペースで支援できている。入浴日をユニットにより曜日ごとに週3～5日設定しているが、希望に応じて随時入浴に対応している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ユニットでは起床時間や就寝時間を決めていない。一人ひとり好きな時に休息して頂いている。又、昼夜逆転しがちな利用者様には昼間の活動を促し、それによって日光浴が出来る時間を作っている。それによって臥床の時間を少なくして頂く様努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬セットは夜勤者がしている為、薬状ファイルを作成し、周知徹底に努めている。与薬まで4回チェックを行っている。本人の体調に変化がある場合は状況を見てその都度、医師に報告、相談している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽療法や園芸療法を通し、過去の記憶が引き出せる様支援している。御家族や本人様よりこれまでの生活歴等を引き出す事により個人レクや集団レクに取り入れる様にしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月行事を行い季節感を味わって頂いている。外食や夜間の外出等も楽しんでいる。天候の良い日は花壇の野菜や花を見る様、外の散歩を楽しんでいる。	年間での外出計画以外にも、本人の希望に合わせて、外出できるよう支援している。例えば、受診の帰りに利用者自宅へ行ったり、利用者の急な散歩にも、玄関先にお出掛けセット（施設名札・お金・携帯電話）を準備し、すばやく対応している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり、御家族に定期的に目を通して頂いている。支払い領収書は御家族に送付している。能力に応じて手持ち金を持たれる方もおられ、自販機にて飲み物を買う事も出来る。お祭りの時等はお小遣いより金額を決め、本人が直接買い物ができる様にしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、自由に電話は使用できる。難聴や言語障害の方には職員が代わりに電話する事もある。定期的に御家族に利用者様の状況報告をしている。ユニット新聞を送付しユニットにも掲示している。年賀状等送る際、本人様にも書いて頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットには季節を感じられる装飾をしている。照明は既存の照明ではなく所要所に照明できる様増設している。テレビのボリュームは職員が調整行っている。又、ユニット内は家庭的な雰囲気が出せる様にソファや家具の配置に気を使っている。	きれいに整理整頓されながらも、利用者と一緒に製作した作り物や絵を飾り、落ち着いた雰囲気居心地良い生活空間が創られている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分２か所にテーブルを配置し、ソファ어도自由に座れる様に追加している。利用者様の席決めをする時は気持ちに配慮し不安やストレスを解消できる様にしている。又、プライバシーが守られる空間作りも行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具等の持ち込みをして頂いている。配置は本人、御家族と相談の上行っている。本人が書いた油絵や家族の写真や仏壇なども置き、心地よく過ごせる様に努めている。	ベット・エアコン・クローゼットは、備え付けだが、その他の家具は、本人馴染みの物を持って来られ、自分の部屋を創っている。家族も、出入りしやすい環境で、一緒に部屋の模様替えをしたりしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーになっており、要所要所には手すりが設けられ、使いやすい様整理している。トイレは車椅子が使用できる様広いスペースを取っている。又、歩行不安定な利用者様がユニット内を手引きにて歩行訓練をしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域・福祉・医療を観点に「おあしすありた」の名のもとに「穏やかで安心して信頼される素晴らしい介護を目指す」というわかり易く親しみのある理念を共有し、会議等で統一なケアが出来るよう努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	教育機関との交流を積極的に行うことで、子どもとの触れ合いを持っている。また年一回バザーを開催し、近所の方々にお越し頂いている 救マーク・子ども１１０番と地域に役立てる取り組みも行っている		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、家族・包括・民生委員の方と地域の事などについて話し合っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、施設・地域の事を中心に話し合い、ユニット会議にて報告・意見交換を行いサービス向上に活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方が多く、月一回区役所に赴いている 支払い困難な方の申請の相談をしたり、オムツサービス。アンケート等積極的に報告・連絡・相談・講習会の参加を行っている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業方針に掲げ、全スタッフが周知している 鈴を活用し、施錠することなくスタッフが即座に対応できるよう工夫している		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の外部研修に参加し、ユニット会議にて全スタッフに周知している スタッフ同士声を掛け合い、注意し防止に努めている		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修に参加し、ユニット会議にて話し合いを持っている 成年後見制度など必要な家族にも入居時説明を行っている		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけ、わかり易く説明を行っている 変更時は個別にしっかりと説明を行い納得の上で同意を頂いている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時又必要時は電話などにて家族の状況・不満などを知り得ると同時に意見交換を行っている 運営会議・運営推進会議・ユニット会議にて必要時検討を行っている		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の際だけでなく、毎日の業務の間にも話し合いを行っている 決定は管理者だけで行うのではなく、必ずスタッフと一緒にしている		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの希望する研修に参加するため、勤務の調整を行ったり、毎年のベースアップ・能力によりパートの時給アップも行っている		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	高齢者に対する介護観・やる気・人柄を重視し採用している 能力の向上・やる気の持続の為資格取得などの人材育成に努めている		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権について外部研修に毎年必ず参加しユニット会議にて周知し意識の啓発を行っている		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数・能力・やる気など把握した上で資格取得など学ぶ機会を作り、人材育成に繋げている		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議にて同業者に出席して頂いたり、地域のグループホームの交流会に参加している その都度知り合った同業者と相談など情報交換を行っている		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人が不安な時は何度も訪問したり、居室が空室時は短期入居も利用して頂いている まずは信頼関係を持てるよう何度も会い安心して頂くことから始めている		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に不安・要望を何度も聞き、まずは受け止めると共に信頼して頂けるよう努めている 必要時は訪問したり、見学して頂き話を聞く機会を取り入れている		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	見学の段階で本人・家族にしっかりと話を聞 き、必要に応じ担当ケアマネージャーに意見 を聞いたり、市発行の「高齢者のあらし」 を参考に対応を行っている		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	入居者の心身の状況をふまえ、手伝って頂い たり、知恵や技を教えて頂いている 手伝って頂いた後は必ず労いや感謝の言葉を かけて支えあう関係を築いている		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	一緒に入居者を支えていくという気持を常に 持ち、何か起こった際は家族と一緒に問題解 決を行っている		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	家族同意の上で知り合いや友人など細かく聞 き、面会に来て頂いている ユニットの行事などで馴染みの所にドライブ に行っている		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士リビングやソファにてスタッフ も含め一緒に話す機会を取り入れている		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	契約終了後でも入院先や施設に定期的に面会 に行きフォローしている 福祉用具のリサイクルの相談や、バザーなど の催し物のお誘いも途切れることなく行っ ている		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何をしたいのか、何が食べたいのかを日頃のコミュニケーションから聞き出すように常に心掛けている 伝えることが困難な入居者には本人本位に立つよう日々話し合いを行っている		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を踏まえ本人・家族より細かな情報収集を行い、把握に努めている		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務体制により休みなどスタッフが入れ替わっているため、細かな情報を伝えるよう申し送りを徹底している		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人または家族面会時意向を得た情報をもとにユニット会議内のケアカンファにて作成している ADL変化時入退院後など定期的な見直しを行っている		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録にケアプランに沿った内容・日々の様子などを細かく記載し、出勤時必ず目を通すようにし、情報を共有している		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日のケア・コミュニケーションの中で入居者のニーズを汲み取り、ユニット会議にてディスカッションし、多角的視点で話し合い、サービスに反映している		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署と連携し、年2回の避難訓練、地域の医療機関の往診、市のオムツサービス、教育機関との触れ合いなど取り入れ、支援を行っている		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られなかったかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が利用していた病院・主治医を変えることなく、往診・受診できるよう配慮している 係りつけ医と話をしっかり行うようにし、家族と随時情報を共有している		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師が週一回勤務し、その際情報を伝え、報告している ファイルを作成し、日々気付いた事柄を記入し、明確に詳細を伝え相談している		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日々の定期受診、往診は勿論のこと入院中も時間をとって頂き、家族と一緒に状態を伝えて頂いている 必要時には病院内の相談員と話をし、早期退院に努めている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化についての書面を入居時説明し、ADL低下時に何度も話し合いこれからのことを一緒に考えて取り組んでいる		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	正社員は応急手当普及員の資格を取得しており、新入社員も出来るだけ早く取得するようにしている 消防署の救マークの認定も取得している		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日勤・夜勤想定避難訓練を消防署と連携し行っている 非常物品・非常食を各ユニットで揃え、緊急時に備え適宜チェックをしている		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外部・内部研修にて全スタッフに周知している スタッフ同士が声を掛け合いプライバシーに配慮し対応している		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今何がしたいのか、何が食べたいのかを日常のコミュニケーションの中で引き出すよう働きかけを行っている 言葉が出にくく、表現できない入居者は表情を読み取るよう観察を常に行っている		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やレクなど一人ひとりの体調・気分にて強制せず本人のペースにて過ごすよう支援している		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ネックレスや指輪などのアクセサリーやお気に入りの服を着て頂いている 体型に合わない際はゴムなどで調整している 理美容も本人の馴染みのところに行く入居者もいる		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいのかを聞き、希望に添ったメニューを提供している 簡単な作業を一緒に行いながら料理を行っている		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表にて水分量を把握している 主治医と話し合いながらコーヒーなども飲めるように配慮している 一人ひとり病気・食事量・制限食を把握しており、0カロリーの砂糖や減塩の物など苦にならないように配慮している		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回訪問歯科にてケア・チェックをして頂いている 口腔ケアについてアドバイスを頂き、それをもとに一人ひとり時間を分けている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックリストにてパターンを把握した上で早め早めに誘導し、失禁を減らしている 車椅子でも立てる方は必ず共同トイレに誘導している		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のパターンを把握し、腹部マッサージを早めに行ったり、根菜・ヤクルト・ヨーグルトなどを多く取り入れ予防している		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	一人ひとりゆったりと入って頂くように1日5人までとし、火・金以外毎日入れるように支援している 入りたくないと言われた入居者は次の日に入浴の声掛けを行っている		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体感温度に合わせ、室温調整をし、気持ちよく寝れるように配慮している 夜間テレビをゆったり見た後に就寝したりと個人に合わせた過ごし方を支援している		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりに薬情ノートを作成し、薬に変化があった際はスタッフ全員がすぐ確認できるよう徹底している 受診・往診の際は主治医にバイタル表など毎回提出している		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝コーヒーなど好きな飲み物を飲んだり楽しんで頂いている 家族・入居者にこれまでの生活歴を細かく教えて頂き、日々の生活に反映している		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の体調や希望にて外食や季節に合わせたドライブなどの外出を月一回行っている 出来るだけ家族と一緒に散歩など声掛けもしている		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合い、紛失しても良い額で許可を頂き、手元にお金を持って頂いている 出来るだけ外出時本人が希望した際は本人に支払いをして頂いている		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が電話をしたいとの声があればいつでも出来るよう、何回しても大丈夫かの家族の許可を頂き支援している 年賀状も出来るだけ本人に書いて頂いている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けをし、変化をつけている 光を感じられるよう配慮し、定期的に換気を行っている 危険因子を取り除き、広々とした空間で動き易く過ごして頂けるよう気をつけている		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・廊下奥にソファを設け、入居者同士でゆったりと座り、会話出来る様に工夫している		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物で家具を揃えて頂いている 写真など家族と一緒に居られるように飾って工夫している		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床・手すりなどバリアフリーにした造りになっており、安全面に十分配慮している 浴室やトイレなどもゆったりしたスペースになっている		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域交流等を組み込んだ理念を作り、毎朝唱和しスタッフ全員に意識付けると共に実践に繋げる取り組みを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回の保育園との交流や、近隣の教育機関の研修、ボランティアを積極的に受け入れる。又、年1回開催するバザーには毎年地域の方々にお越し頂き交流を図っている。子供110番、応急手当普及員の常駐等地域に役立てる様な取り組みを行っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、家族や地域の民生委員の方に認知症について話をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括、民生委員、家族、（時折、他施設のスタッフ）に参加して頂き、利用者の状況や施設の行事、スタッフについて等の報告を行い、そこで出た意見をスタッフと共有し取り入れサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括や、保護課との連携。市主催の研修への参加を積極的に行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加し、それを全職員に周知する。また、身体拘束排除についてのマニュアルをいつでも見れる所に置いている。ユニットでは、入り口に鈴を付ける等の工夫をし、施錠をしない、見守りを徹底し身体拘束の無いケアに取り組んでいる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に参加し、それを全職員に周知している。また、ユニット会議でケアについて職員で話し合い、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、学ぶ機会を設けている。また、必要な際には関係者と話し合い支援している。また、実際に利用している入居者も居る。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、重要事項説明書の内容、グループホームについての説明を出来るだけ詳しく行い、質問等にじっくりと答える時間を設けて納得の上署名、捺印を頂いている。料金改定など変更のあった際には、面会時、電話、文書などで理解を得る。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に、家族と情報交換、コミュニケーションを密に取り関係作りを行うことで、意見を言いやすい雰囲気づくりをしている。また、出た意見はすぐに職員間で共有し対応する。介護保険サービス苦情相談窓口のポスターを掲示し、意見を表せるように配慮している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者だけで決めるのではなく、ユニット会議等で職員の意見を聞き出し、運営に反映させるようにしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務状態、努力を評価し時給のアップや役付を行うことにより、向上心、やりがいを持って働けるように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集・採用にあたっては、性別や年齢等は判断材料とせず、本人のやる気や能力や人柄で判断する様にしている。働く職員もやりたい仕事や研修は可能な限り行かせ能力が発揮出来る様に配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は人権についての研修や講習会に参加し、それを職員に伝える。又、常々ユニット会議等で利用者に対する人権の尊重について話をするようにしている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市、県の研修の情報を掲示し希望者には受講させる。また、一人一人の力量に応じて、必要と思われる研修には積極的に参加させる。その際は勤務扱いにする事で働きながら学びやすい環境を作る。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に積極的に参加することにより、そこで知り合った同業者と情報交換を行うようにする。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、家族や関係者等に話を聞き情報収集に努め、出来る限り本人との面談を行う。初期には、こまめにコミュニケーションを取ることで信頼関係を築き安心した生活が送れるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前（見学时など）や、契約時に家族の意向を聞きサービスを開始する上での要望や不安な点等を聞きサービスを行う。面会時などには状況報告等を行い、コミュニケーションを図る事で良い関係作りが出来る様に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	本人や家族から集めた情報を元に、その時必 要なサービスを見極め支援出来る様努めてい る。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	その人の立場に立って寄り添う介護を行うよ うに心がけ、信頼し合える関係作りに努めて いる。また、日頃より利用者と共に調理、洗 濯作業等を行うことで家庭的な雰囲気を重視 し暮らしを共にしている関係を築く様に心掛 ける。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	行事等で、本人と家族が触れ合えるきかけ 作りを積極的に行い、面会時の情報交換やこ まめな状況報告等で共に本人を支えて行ける ような関係作りに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないう、支援に努めている	家族から情報を貰ったり、知人の面会時には ゆっくり話が出来る様配慮する。行きたい場 所があれば家族の協力を得、可能な限り叶え られるよう支援に努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を把握し、トラブルになら ないよう配慮しながら、なじみの関係作りが 出来る様きかけ作りを行う。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	退去後も、バザー等の行事へのお誘いや面会 などを行うことで関係を保って行ける様に努 めている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のコミュニケーションの中で希望や、意向を聞き出せるように努めている。また、聞き出せた希望を可能な限り叶えられるよう努めている。困難な場合には本人の立場に立って、本人本位で検討する。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族やケアマネから、生活歴、経過などの情報を収集し把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に状態観察を行い、一日の様子や心身状態やADLの現状の把握に努め、ケアに活かしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とは日頃のコミュニケーションから意見を聞き出し、ケアに活かす。家族とは面会時等に出来るだけ話をし、意見を聞く。又、主治医やスタッフと話をし、意見を取り入れた介護計画を立てるようにしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化があった際には経過記録に詳しく記録し、意見は申し送り帳に記入し、職員間で共有し検討している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃より本人と家族とのコミュニケーションを重視し、その時々ニーズに合わせて柔軟な支援を行える様に心がけている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療機関の往診、訪問理美容、近隣の教育機関の訪問の受け入れなどを取り入れ安全で豊かな暮らしが出来る様に支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するなじみのかかりつけ医を受診出来る様に配慮している。かかりつけ医の受診、往診の際には情報交換を密に行っている。また、病状に合った医療機関の提案を行う事もある。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が勤務しており、その際には現状の報告を密に行っている。また、急変時等は24時間連絡が取れるようになっている。また、往診看護師にも対象利用者の報告を密に行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より病院関係者との連携を図り、入院した際にも安心して治療が受けられるように情報交換を行っている。入院した際にも病院関係者とこまめに連絡を取り合い出来る限り早期に退院できるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	申し込み時や入居の際に看護師が常駐していないため、医療行為が出来ない、看取りケアは出来ない旨、事業所に出来る事を十分に説明し、納得したうえで入居となっている。また、重度化した際には本人や家族や医師と連携を取り方針を話し合う。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	正社員は応急手当普及員講習に全員行っている。（定期的に更新の為に講習有）パート職員も全員避難訓練の際やユニットでの勉強会にて応急手当講習を受けている。希望者は消防局の研修にも行かせている。緊急時マニュアル、利用者の状態をまとめたファイルを常備し急変時にはスムーズに対応出来るようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に日勤帯、夜勤帯を想定した避難訓練を行っている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格の尊重を重視し、常に自身の言葉かけについて振り返る機会を持つ。スタッフ間でもお互いに気付いた事は注意し合う。ユニット会議等でも全員で話し合い、プライバシーを損ねない言葉かけを心がけている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も必ず職員で決めるのではなく、本人の希望を最優先させるようにしている。また、自己決定の出来ない方は、表情や日頃の行動から読み取り対応するようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ介護をするように心がけている。希望される事があれば、その日の勤務の職員で話し合い、出来る限り叶えられるように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服は出来るだけ本人に選んで頂く。月1回の理美容では希望される髪型にするように配慮し、欲しい衣服等あれば、一緒に買い物へ行き好きな物を選んで購入出来る様支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせたお手伝いをして頂いている。また、何か食べたい物が無いかな聞きだしメニューに取り入れている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事形態を考え提供している。検食簿を記入し偏りのない食事を提供できる様に心掛けている。また、水分チェック表を記入し一日の水分量が確保出来る様に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握し、ケアしている。また、週1回の訪問歯科にて、口腔ケア、口腔内のチェックをして頂き、口腔ケアについてのアドバイスをもらうこともある。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつやりハビリパンツなしで失敗を防げるか、個々の排せつパターンを知るため必要な方は排せつチェック表を付けている。それを元に、工夫して来る限り使用しないようにしている。使用していた方も、本人、家族、職員間で話し合い極力自立に向けた支援が出来る様に努めている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排せつチェックにて排便の間隔を把握する。水分、食物繊維の多い食べ物を積極的に取り入れるなど工夫をする。また、歩行可能な方は散歩等軽い運動も行うように働きかけている。どうしても出ない際には主治医に相談する。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	基本は週3回だが、希望される際にはすぐに対応出来る様にしている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	何事も無理強いはずらずに、休息したい時には居室やリビングにてゆっくりしてもらっている。昼夜逆転を防ぐため散歩や、入浴、レクリエーションで活動する時間も設けている。就寝時間も特に決めておらず、一人ひとりの習慣に合わせ安眠出来る様に支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに薬情をまとめ、いつでも見れるようにしており、職員は必ず目を通し把握に努めている。服薬の際には必ず名前、服薬を確認しと薬した者がチェック表にサインをする。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や特技を活かし楽しみや役割を持って生活して頂けるように支援している。また、嗜好品に関しても出来る限り続けて行けるように配慮している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時には出来る限り出かけている。普段行けない場所に関しては、家族と話し合い、出かけられるように支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力のある利用者は、お小遣いを持たせて買い物の際にはそこから自分で支払いをしている。手持ちが難しい方も、出来るだけ支払いの際にはお金を渡し自分で支払いが出来る様に支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望されれば、いつでも電話が出来る様になっている。荷物等を送りたい場合は郵便局にお連れする。また、暑中見舞いや年賀状のやり取りが出来る様に支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すような装飾をしたり、カーテンやクロスなども自然な色のものを使用するようにしている。また、危険因子は取り除き移動しやすく生活しやすい環境作りを心がけている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルが3台あり、レクリエーションしている方達も居れば、一人でテレビを見る方も居る。思い思いに過ごしやすい雰囲気作りや、逆に孤独にならないように気配りをするように心がけている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、危険物以外は以前使われていた馴染みの家具を置けるようになっている。本人が居心地の良い空間になるように本人の希望を取り入れながら、空間作りを行っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室や廊下には手すりがあり、バリアフリーになっていて安全に使用出来る様工夫してある。また、トイレや自分の居室もわかりやすく張り紙を貼る等に対応している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない